

清流ニュース

発行所
八王子市子安町 1-22-25
清流寺
清流ニュース編集室
電話 (042) 646-0287 (代)
FAX (042) 644-1164
http://seiryuji.jp/org/

平成二十七年 度 総 祈 願
本 年 度 教 化 誓 願 達 成
佛 立 開 導 日 扇 聖 人 二 生 誕 二 百 年 慶 讚
佛 立 開 花 運 動 第 三 年 度 御 奉 公 成 就 之 御 願
農 尊 三 十 三 回 御 諱 報 恩 御 奉 公 成 就
役 中 後 継 者 養 成 法 灯 相 続 促 進

五月の御総講日

一日	十時	御修行日
七日	九時半	バスデー総講 日序上人報恩祈念
十三日	十時	高祖御命日
十七日	十時	開導御命日
廿五日	十時	門祖御命日
十二日	十時	於 清流寺 高祖御速夜
十六日	十時	開導御速夜
廿四日	十時	於 羽村別院 門祖御速夜

5月10日
10時30分

佛立第八世講有日歡上人御会式 新緑の羽村別院にて奉修 家族そろってお参詣を!

来る五月十日(日)午前十時三十分より、「第八世講有日歡上人の御会式(歡尊会)」が羽村別院にて奉修されます。日歡上人は昭和十九年五月三十日、御齡八十五歳でご遷化遊ばされました。当山は、この日歡上人を当山草創とお敬い申し上げ、年に一度、羽村別院に於て報恩の誠を捧げる意味から、「歡尊会」を奉修させて頂いておられます。佛立第八世講有日歡上人は乗泉寺中興開基(古いお寺を再興)とお敬い申し上げます。

私共の本寺(親寺)とも申しますが、乗泉寺の歴史は古く、江戸時代から本門法華宗の一寺院として存在しておりました。日歡上人がこの乗泉寺のご住職に就任された当時は、寺とは名ばかりで、荒れ放題だったといわれています。前の住職は逐電してしまいたから、本堂は雨漏りし、畳はボロボロ、勿体なくも内陣には瓶(ネズミ)が入りし、御尊像のご礼盤は塔婆板で打ちつけ、想像に絶する状態でした。このような状況の中を、上

人は、毎朝三時に起床され、七時迄、一万遍の口唱を重ねられたと伝えられており、その上人の熱意が旧檀家にも通じて朝参詣も、二人、三人と増えてくるようになり、ご利益も盛んに顕れるようになってご弘通が発展していききました。日歡上人のご信念として伝えられている、ご信条とも申すべきことをご披露させていただきますと、
一、私は日本国内中誰にも負けないように御弘通をさせて頂こう。
一、私は日本国内中誰にも負けないよう、沢山御看經をさせて頂こう。
一、私は大尊師の教え通りに信心で押し通させていただこう。

この三つを心に誓われご奉公遊ばされ、あの乗泉寺の基礎を築かれたのであります。年に一度の歡尊会に家族そろって参詣いたしました。尚、当日は羽村駅から別院まで清流バスの運行があります。晴天祈願
三日(日)〜九日(土)
第一座 六時〜七時半
第二座 九時半〜十時半

五月朝参詣強調週間 第三、第四連合担当 歡尊会奉修のため変則的

今月の朝参詣強調週間は、歡尊会の晴天祈願がありますので、十一日から十六日まで途中十三日の御総講を除いて五日間実施いたします。
五月十一日(月) 国分寺教区
十二日(火) 小平教区
十四日(木) 東村山教区
十五日(金) 昭島教区
十六日(土) 小金井教区

例月七日

全教区合同教化道場

毎月七日の御総講日は弘通デーで、全教区合同の教化道場が実施されます。各教区では、それぞれ教化道場を実施していますが、清流寺の御宝前で全教区の誓願者が一堂に会して御弘通を祈願させて頂くことにより一層弘通意欲を盛り上げるエネルギーが、湧いてまいりますから一人でも多くお参詣に氣張ります。よろしく。

本月の御妙判 人助けが生き甲斐



たとへば種子と、苗と、草と、稲とは、かはれども、心はたがはず釈迦仏と法華経の文字とはかはれども、心は一つなり

(四条金吾殿御返事)

種を田に蒔けば、芽が出て、その芽が苗となり、その苗に稲の花が咲き、実を結んで米となるので種も苗も稲も米を切り離して考えることは出来ま

せん。種というものがなければ苗も稲も一切出来ずまた苗となり稲になってこそ種をまいたかがあるわけです。釈尊と法華経との関係も正しく此の通りということが云えます。釈尊の御出現ということが無ければ法華経というものもあろう筈はなく、若し法華経を説かずに終られたならば、釈尊の此の娑婆世界に出られたこと

が無意義ということになります。釈尊が一切衆生に救護を与えんが為に此の世に御出現になつたという事は多くの経論等に説かれていますが、法花経薬草喩品に、「衆生ヲ安穩ナラシメンガ故ニ世ニ現ジテ、大衆ノ為ニ甘露ノ浄法ヲ説ク。其ノ法一味ニシテ解脱涅槃ナリ」と仰せられた。解脱とは一切の苦を離れたこと。涅槃とは正しい覚りを得たことです。仏の教えの中には小乗と大乘との別があるけれども、小乗は大乗を説くための前提に過ぎないのでお経文にも

「常ニ大乘ノ為ニ而モ因縁ヲ為ス」と説かれてあります。人の性質というものはそれぞれ皆異なっているけれども、生まれ乍ら仏性を具えているという点においては同一というところが出来ま。無量義には「性欲無量ナルガ故ニ説法無量ナリ。説法無量ナルガ故ニ義モ亦無量ナリ。無量義ハ一法ヨリ生ズ」と説かれてあります。その一法というものは、すべての人を皆仏にしてやり度いという釈尊の心のことであり、その

為の修行を説いてあるのが法花経であるということが出来るのであります。開導聖人はとにかくに人をたすけておかせれば生れて来たかひはあらじなと、御教歌下されてありますが、人助けこそが御法を持つわれわれの今生人界の思出、即ち「生き甲斐」でもありますので、仏様の御本意であり、法花経の本意であるところのこの御法を世の中に弘めて人を救うという日々の御弘通御奉公も怠りがあつてはならないのであります。

平成廿七年度
東京中央布教区
弘通促進大会を開催
当山 清流寺にて
来る六月十四日(日)午前十三時三十分より、本年度の東京中央布教区弘通促進大会が当山を会場に開催されます。管内十一ヶ寺の教講約三〇〇名が参集して「佛立開花運動」円成をめざして実施されます。
当山の参詣割り当ては、一〇〇名位になると予想されますので、今からシッカリと予定を取っておきましょう。
日序上人御十七回忌報恩奉公御有志奉納者氏名その六十五(教区順。敬称略。順不同) 二十七年四月十七日現在 合計八三〇名、一、六一八口